



よろい

甲を着た古墳人だより



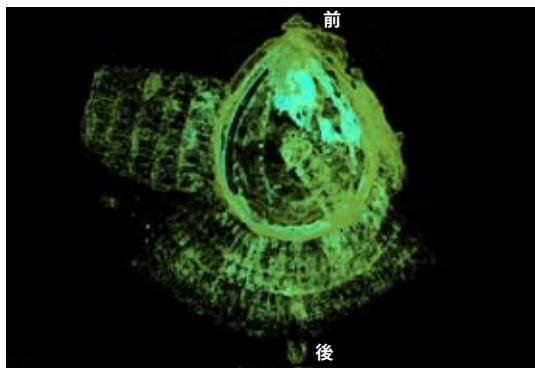
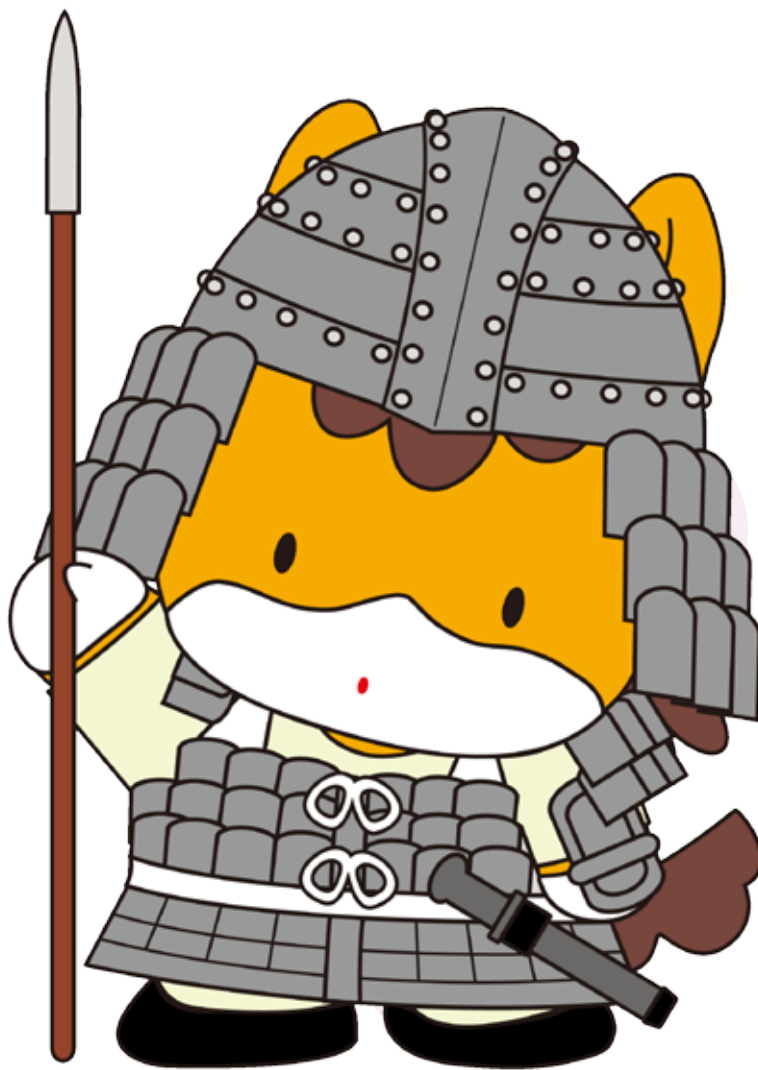
公益財団法人
群馬県埋蔵文化財調査事業団

イラスト「甲を着たぐんまちゃん」の冑かぶとを修正しました。

渋川市金井東裏遺跡の「甲を着た古墳人」の頭部の下をCTスキャンで調査したところ、
よこはぎいたびょうどめしょうかくつきかぶと
「横矧板鉾留衝角付冑」という名称の鉄製冑があることがわかりました。

事業団ではCTスキャンの調査成果を取り入れて、「甲を着たぐんまちゃん」のイラストの冑を修正しました。今回は、ニューバージョンの「甲を着たぐんまちゃん」の紹介と「冑」の特集にしました。

ニュー
バージョン
だよ!!



冑のCTスキャン画像（甲を着た古墳人だより Vol.7）

古墳時代の甲を着たぐんまちゃん

群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」許諾番号25-100451

くらべてみよう!!

どこが変わったかな？ よーくみてみよう！



ヒント かぶと 冑に注目

古墳時代の「びょうどめしょうかくつきかぶと 鉾留衝角付冑」には大きく分けて2種類があります。横方向に長い鉄板をつなげる「よこはぎいた 横矧板」の冑と、縦方向に鉄板をつなげる「たてはぎいた 縦矧板」の冑です。

金井東裏遺跡のCTスキャンの調査でみつかったのは、この「よこはぎいた 横矧板」の冑でした。

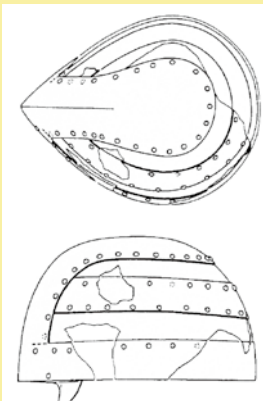
ニューバーションの
甲を着たぐんまちゃん



これまでの
甲を着たぐんまちゃん



よこはぎいたびょうどめしょうかくつきかぶと
横矧板鉾留衝角付冑

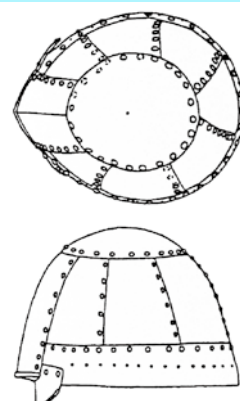


上から見た図

横から見た図

愛知県大須二子山古墳出土

たてはぎいたびょうどめしょうかくつきかぶと
縦矧板鉾留衝角付冑



群馬県諏訪神社古墳出土

よこはぎいたびょうどめしょうかくつきかぶと
「横矧板鉾留衝角付冑」は古墳時代中期からつくられるようになった冑です。横に長い帯状の鉄板を曲げて、横方向に鉾で留めてつくられています。それ以前は三角形や帯状の鉄板を革の紐で綴じたものでした。鉾で留める方法は中期後半の5世紀中ごろから使われるようになりました。

たてはぎいたびょうどめしょうかくつきかぶと
「縦矧板鉾留衝角付冑」は古墳時代後期の6世紀中ごろからつくられるようになりました。縦方向に鉄板を鉾で留めてつくられています。朝鮮半島からもたらされた新しい冑の特徴を取り入れてつくられたと考えられています。

